



長生支部だより 第5号

発行所 千葉県立長生高等学校同窓会長生支部

発行人 会長 中村早苗

長高時代の思い出

齊藤千行

三年前の五月のある日のこと、退職教職員の団体の研修会の時、ある先輩がハーモニカで演奏してくれた音楽が衝撃をもって私の耳に飛び込んできた。その曲の題名は「丘を越えて」である。私の最も好きな曲の一つであり、更には私たちが長高時代にいつも楽しみにしていた文化祭は、マンドリンクラブの演奏により、この曲で幕を開けたものだった。聴いたとたんに懐かしい気持ちがあふれ、高校時代の日々がよみがえってきた。



旧校舎玄関

ある友は、いつも小さな本をポケットに入れ、暇さえあれば読書をしている。恥ずかしながら文庫本や新書版などの本があることを知らなかった。親切にも彼は私に読んでいた本を貸してくれた。五味川純平の「人間の条件」であった。私はこの時初めて読書の喜びというものを知り、それ以来活字人間である。

別の友達から「俺の家へ遊びにくれば」と誘われ、音楽で歓迎してくれた。それはジョン・ウエイン主演の西部劇「駅馬車」の映画音楽であった。驚いたことに音が動いている、駅馬車が左から右へ動いていくのがよくわかる。これをステレオと言った。驚いた。また、彼はクラシック音楽の手ほどきもしてくれ、「ペルシャの市場」という曲をもとにあれこれ聴きどころを丁寧に教えてくれた。このことが私を音楽好きにした。

高一の六月のある日、市内に住む二人の友が私の家に泊まりにきた。いざ布団を敷いて寝る段になって、彼らはやおらトランジスタラジオとテキストを取り出し、大学受験のラジオ講座を聴き始めたのである。この時期からもう受験勉強かとあきれてしまった。ためになるので私もやってみようと思った。問題が難しくてまるであげられない。すぐやめた。

最近クラシック音楽に入れ込んでいる。冒頭の「丘を越えて」のCDを探しに行ったとき、懐かしい曲が

あったので数枚買って来たのが病みつき。の始まりであった。何か途方もないものにつかまってしまったという感が無きにしても非ず。とにかく口が広く奥も深い。しかし好きになつてしまったものはしょうがない。高嶋ちさ子の「ヴァイオリニストの音楽案内」などを読んで、聞いて楽しいもの、心の癒しになるもの、いいと勝手に決めつけ、FM放送の番組を中心に聞いたりしている。悔いなくても詮無いことであるが、もともと早く、もっと若いうちに好きになればよかつた。残念に思う。でも何か熱中できることが増えたことはいいことかと自分に言い聞かせている。今である。

(昭和39年卒・白子町)

30年度総会報告

昨年11月17日、ホテル一宮シーサイドオーツカにて平成30年度総会を開催しました。来賓を含め51名の方が出席しました。総会後には、平成6年の卒業生である若菜亜衣子さんと片岡久美子さんによる「ソプラノリサイタル」を開催しました。その後の懇親会では、皆で和気あいあいとした楽しい時間を過ごしました。今年の総会にも多くの会員が参加されますよう期待しています。

平成30年度事業報告

平成30年度 会計報告

平成30年9月1日から令和元年8月31日まで

- 平成30. 9. 19 平成29年度会計監査
- 9. 19 役員会 役員16名出席
- 10. 1 「長生支部だより」第4号発行
- 11. 4 「長生高校同窓会報」第25号へ寄稿
- 11. 9 千葉県立長生高等学校
創立130周年記念式典
- 11. 17 平成30年度総会
来賓・会員51名出席
- 平成31. 2. 7 役員会 役員21名出席
- 2. 21 長生高校同窓会常任幹事会
- 3. 長生高校へ寄付金持参 中村会長
- 5. 10 白子町「ニューカネイ」打合せ
- 5. 16 役員会 役員21名出席
- 6. 20 長生高校同窓会常任幹事会
- 8. 3 長生高校同窓会総会

収入総額	974,729 円
支出総額	589,288 円
差引残高	385,441 円
前年度繰越金	465,029 円
単年度収支	△ 79,588 円

収入の部

(単位:円)

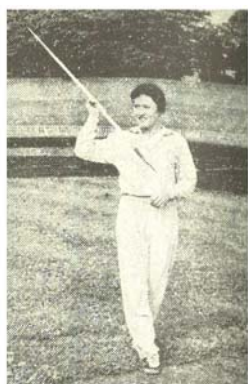
科目	予算額	決算	予算額に比し決算額の増減額	備考
入会金	60,000	14,000	△ 46,000	7人×2,000円
親睦会収入	600,000	446,000	△ 154,000	43人×10,000円 2人×8,000円
寄付	30,000	49,696	19,696	総会来賓、役員会残金
雑収入	971	4	△ 967	預金利息
前年度繰越金	465,029	465,029	0	
収入合計	1,156,000	974,729	△ 181,271	

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算	差引残額	備考
事務費	200,000	73,949	126,051	総会・役員会 印刷費等
事業費	60,000	60,000	0	母校支援事業、講師謝礼
親睦費	500,000	397,896	102,104	懇親会・写真代
渉外費	100,000	0	100,000	
通信費	100,000	57,443	42,557	郵送代
子備費	186,000	0	186,000	
積立金	10,000	0	10,000	
支出合計	1,156,000	589,288	566,712	

※別枠で、50万円を積立金(定額貯金)として保管しています。



志田順子選手
(長生高校百年誌より)

**志田順子さん
長高とオリンピック**

来年「東京オリンピック」が開催されますが、今から63年前長高からオリンピックに出場した人がいたことをご存じでしょうか。(出場時は卒業生)

志田順子さんは、来年のオリンピックでサーフィン競技の会場となる一宮町の「釣ヶ崎海岸」のすぐ近くで育ち、当時の長生一高へ進学しました。高校時代から活躍され、オリンピック候補とされていきました。

志田さんの在学中の記録は、二年時、全国高校陸上競技選手権大会でやり投3位、円盤投2位、砲丸投優勝、女子団体優勝、国民体育大会で一般女子やり投優勝

三年時、関東陸上選手権大会(一般)砲丸投優勝、やり投優勝、全フイリピン陸上競技大会で砲丸投優勝。

志田さんは卒業後中央大学に進学し、二年後メルボルンオリンピックに出場しました。

当時の様子を『長生高校百年誌』より引用しました。

「第十六回オリンピック大会はオーストラリアのメルボルンにおいて十一月中旬より開催されたが、志田選手が本校出身の初のオリンピック選手というので、学校の熱の入れようも大変なものであった。」

「九月十六日、日本陸連の第一次発表に志田選手が挙げられて以来、同選手の身辺は俄に多忙となると同時に、初めてのオリンピック選手を生んだ本校及び郷土太東町は、オリンピック遠征を全面的にバックアップするため後援会を結成、物心両面にわたって積極的な支援活動を開始した。」

「十月十九日、第三時限の授業を割り志田選手の壮行式が校庭で行われた。胸に小さな日の丸をつけた真新しいブレザーコート姿の志田選手は林校長の紹介で壇上に立ち、力強く健闘を誓って、全校生徒職員の万雷の拍手を浴びた。」

「十二月十四日、志田選手歓迎報告会が午後体育館で開催され、全校生徒の割れるような拍手に迎えられ、志田選手は静かにオリンピックの模様を語り、深い感銘を与えた。」